27 あきのさんの班は、古文とその口語訳を読んで、その作品が書かれた時代の様子を知るために、話し合いをしています。【古文の一部】・【口語訳】・【話し合いの一部】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【古文の一部】

家の作りやうは――「徒然草」から

家の作りやうは、夏をむねとすべし。冬は、いかなる所にも住まる。暑きころわろき住居は、堪へがたきことなり。

深き水は、涼しげなし。浅くて流れたる、はるかに涼し。細かなる物を見るに、遣戸は蔀の間よりも明かし。天井の高きは、冬寒く、灯暗し。造作は、用なき所を作りたる、見るもおもしろく、万の用にも立ちてよしとぞ、人の定め合ひはべりし。

（「徒然草全注釈　上巻」より。一部省略等がある。）

【口語訳】

家の作り方は、夏を中心に考えるのがよい。冬はどんな所にでも住める。暑い時期に住みにくい住居は、我慢できないものである。

やり水（庭に水を引き入れて作った細い流れ）については、底が深いのは涼しそうではない。浅くて流れているほうがずっと涼しい感じがする。細かい物を見るときには、やり戸（左右に開閉する引き戸）のある部屋のほうが、しとみ（上下に開閉する格子を付けた戸）のある部屋よりも明るい。また、天井が高い部屋は、冬の間寒く、夜は灯火が暗い。建築は、使い道のない部屋を作っておくのが、見た目も風流で、いろいろなことに役立ってよいものだと、ある人たちが論じ合って決めたのでした。

【話し合いの一部】

あきの　徒然草の作者 A の生きた B 時代は、今とは随分違っていたでしょうね。

よしは　今のように、クーラーや扇風機のない時代、夏は暑かったでしょうね。

はるな　服装も着物だから、着る物で温度を調整することも難しかったと思います。

あきの　だから、建物のつくりを工夫したのでしょうか。

はるな　はい。「やり水」という庭に水を引き入れて作った水の流れは、 C と作者は書いていますね。

あきの　「天井が高い部屋は、冬の間寒く、夜は灯火が暗い」とありますが、なぜ明かりが暗いと言えるのだと思いますか。

よしは　そうですね。今は、天井等に電気がついていて明るく照らすことができます。しかし、この時代は床に明かりが置かれていたから、 D ということが理由だと思います。

あきの　なるほど。では、使い道のない部屋をつくっておくことがよいと書かれていますが、これはどうしてだと思いますか。

よしは　今も、余分に部屋があると、いろいろと使えますね。例えば、お客さんに泊まってもらったり、ちょっとした物置場にしたりすることもできます。

はるな　「やり水」「遣り戸」「蔀」など、どのようなものだったのか、もっと知りたいですね。

1 【話し合いの一部】の A ・ B に当てはまる言葉を漢字で書きなさい。

A

B

時代

2 【話し合いの一部】の C に当てはまる言葉を【口語訳】の言葉を用いて書きなさい。ただし、「～よりも～」という形になるように、十字以上、二十字以内で書くこと。

20

10

3 【話し合いの一部】の D に当てはまる言葉を、十字以上、二十字以内で書きなさい。

20

10

問題について

発展［知識及び技能　(3)伝統的な言語文化］古文に親しむ問題
（「徒然草」の作者の考えや古典用語からその時代を知る）

古文を学習するうえで、その時代の文化やその時代に生きた人びとの考え方を知ることはとても重要です。作品の成立時代、作者について調べたり、古語について調べたりして、その作品がどのような時代にどのような考えの作者によって生み出されたのかを捉えることが大切です。そういった学習により、現代社会との共通点と相違点を理解することにつながり、より深く古文を身近なものとして味わえるようになると思われます。

○　解答は、問題用紙に記入します。言葉や文章で答える問題は、条件に注意して書くようにしましょう。

○　解答を読んで、自分で答え合わせをすることもできます。文章で書く問題は、解答の例文を参考にしましょう。

解答

27

1　A　兼好法師　　B　鎌倉（時代）

2（例）　底が深いよりも浅い方が涼しく感じる（十七字）

3（例）　天井が高いと暗くなってしまう（十四字）